

文学部生の

リアルな！学生生活

Vol.29

文学部生のリアルな学生生活の様子を掲載し、ご父母の皆さまに文学部生の充実したキャンパスライフの風景、また文学部ならではの取り組み等の情報を発信いたします。

本だけじゃない？



文学部と聞いて、皆さんはまず何を思い浮かべるでしょうか？ 入学前の私は真つ先に、積み上げられた難解な本と格闘する大学生を思い浮かべ、少し辟易としました。また、フランス語文学文化専攻の「文化」の側面に飛びついて入学を決めた私には、少しだけ文学に対して引け目を感じながら入学書類を書いていたことを思い出します。

しかし、入学から今まで授業を受けてみて、この大学なら幅広い興味・関心に合わせた授業を選べ、学ぶことができると思いました。実際、日本文化論からスペイン語、果ては商学部の授業まで、興味の赴くままに受講することができました。また、苦手意識を持ちつつ受講した文学の授業も、蓋を開



ショーウィンドウ越しにケーキを吟味する光景、パリにて

けてみればミステリーの翻訳をしたり、映画作品を鑑賞して当時の生活について調べ、発表したりするなど、さまざまな観点や方法から学ぶことが多く、気づけばとても楽しく学んできました。文学部に入学して良かったことは、「文学は本だけでなくさまざまな観点から文学の奥深さを学ぶこと」と知ったことだと思います。

フランス文化とお菓子

この専攻を選んだのも、お菓子好き



短期留学中の友人（左）とパリで再会

が高じてフランスの菓子文化について本格的に学びたいと思ったのが理由です。

1年次にフランス文化の基礎を知り、自分でも菓子や食文化について本を読み漁り、ネットで調べていくうちに「なぜこんなに興味があるのに、本場を見ずにあれやこれやと考えているのだろうか？」と思うようになりました。思い立ったが吉日派の私は、文学部の奨学金と、本についてアドバイスをいただいていた教授にお世話になりながら、2年次の夏にフランスでフィールドワークを行いました。

実際に現地へ赴いてみると、本で知った街の様子だけでなく、過去に存在した菓子文化がまだ街中に息づいていることがわかりました。予想外の

興味を深く 広げられる場

こばやし ひかる
小林 耀

文学部人文社会科学科フランス語文学文化専攻4年
私立大妻多摩高校（東京都）出身

発見は「日曜日のミサのあとに菓子を買う風習がある」という既知の知識とは違い、日曜日は午前のみ営業しているお店が主で、むしろ前日の（フランス人の休日が集中し、お店が午後も開いている）土曜日に菓子を買いに来る方が多かったことです。お店の写真を撮るだけのつもりがお客さんの行列に巻き込まれるくらい盛況で、驚きました。また、拙いフランス語での質問にもうれしそうに答えてくださる店員さんが多く、自分の仕事や文化に誇りを持って取り組んでいる様子が印象的でした。

滞在中はスムーズに事が運ぶこともあれば、そううまくはいかないこともあり、たとえば「到着初日にパリ市内で手配したUberの運転手の方が市内の道に不慣れで、フランス初滞在にして

なぜか地図アプリを片手にナビをし、目的地に連れていってもらおう」「改札でカードのタッチ部分がわからず右往左往し、見かねた駅員さんが教えてくれる」「貸し部屋のドアが開かず部屋の前で30分近く鍵と格闘する（そのうち一回はビデオ通話で開け方のコツをレクチャーしてもらおう）」など、なかなかできない体験ができました。

予想通りと予想外がないまぜになったフィールドワークの経験は得難いもので、奨学金制度が無かったらこのような機会は得られなかったと思います。

おわりに

現在、私はフィールドワーク中に語学力の低さを痛感し、語学向上のため定期的にフランス語の試験を受けています。また、現地の流行を知るためにも語彙を増やし、リサーチの精度を上げたいと思っています。最終的には、4年間で身につけたフランス語や異文化対応力を社会に役立てていきたいです。

入学時に具体的な興味や目標を持っている人もいれば、そうでない人もいます。幸い私は特別に好きなことがあったのでこのような学生生活

を送っていますが、もし好きなことを探しに入学された方は、何か琴線に触れることがあれば、「なんかよくわからないけれども、おもしろそうだからとりあえずやってみよう」という精神で、いろいろなことに触れてほしいと思います。きっと充実した日々を過ごせると思います。

From the Faculty of Letters



文学部だより



自宅で探して 自宅で読めます！

文学部英語文学文化専攻 共同研究室

ご父母のみなさま、文学部の13専攻と総合教育科目には、それぞれ「共同研究室」と呼ばれる場所があることをご存じでしょうか。共同研究室は、各専攻・科目の専門書を所蔵した図書室と自習スペースを備え、課題・研究に必要な図書探しや、授業前後の自習場所としてご利用いただけます。

例年、英文研究室においては、春には新生を中心に「たくさん英語に触れよう！」と洋書を借りに訪れ、また期末試験が近づくと7月ごろには、多くの学生が課題や試験に必要な図書を利用されます。

2020年度は、コロナウイルス感染症拡大防止のため学生の

入構制限期間もあり、例年と同じような研究室の開室状況ではありませんが、学生が学修のために図書を必要とすることに変わりはありません。

中央大学では共同研究室のほか、中央図書館などで図書の貸出・閲覧サービスを提供するとともに、100を超えるデータベースと契約しています。学内のPCからデータベースを検索・閲覧することはもちろん、ご自宅などキャンパス外での自習の際にも、VPN接続や学術認証により多くの電子ジャーナル・電子ブックをご利用いただけます。

「共同研究室で見つけたあの本、もう一度読みたい」「CHOIS（中央大学蔵書検索システム）で中央図書館にあるとわかったけれど今すぐ必要」。そんなとき、中央大学図書館ホームページでアクセス方法などをご確認のうえ、ぜひ電子版も活用いただきたく存じます。

最後に、各共同研究室には室員が常駐しており、学生の学修や大学生生活のサポートをしております。ご子女には図書利用をはじめさまざまな機会に共同研究室をご利用いただけますと幸いです。



ビエスモンテと呼ばれるチョコレート製のオブジェ